



HOUSE PLUS

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成30年2月23日

受付日：平成29年1月30日

受付番号：HP17-KT024

## 接合部性能試験成績証

東京都港区芝5-3-3  
 徳栄ビル本館4階  
 ハウスプラス確認検査株式会社  
 代表取締役社長 柳澤恒雄

1. 接合金物名称	FHD-50
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9 株式会社 ガイドーハント 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心斎橋1-5-5
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(圧縮)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部(アンカー型)の圧縮試験 なお、試験方法は接合部性能試験報告書第3章に示す。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「FHD-50」          材質：SPHC(JIS G 3131<sup>*1</sup>)          寸法：105mm×105mm×235mm(外形) 板厚t=6mm          ドリフトピン用孔 5-φ13mm ボルト用孔 1-φ36mm          表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>2) 接合具</p> <p>「FPN-105」5本          材質：SWRM8相当材として以下に掲げる鋼線<sup>*3</sup>          SWRM8(JIS G 3505<sup>*4</sup>)          SWRM10(JIS G 3505<sup>*4</sup>)          Q195(GB/T701-2008<sup>*5</sup>)          寸法：φ12mm L=103mm 先端7mm絞りφ9mm          表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>「丸座金t12.0×φ86」1個          材質：SS400(JIS G 3101<sup>*6</sup>)          寸法：φ86mm 長孔加工孔1-φ16mm 板厚t=12mm          表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>「丸座金t6.0×φ50」1個          材質：SPHC(JIS G 3131<sup>*1</sup>)          寸法：φ50mm 加工孔1-φ16mm 板厚t=6mm          表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610<sup>*2</sup>)</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱材：105mm×105mm×300mm スプルー ス 同一等級構成構造用集成材 E95-F315          含水率：11.5～14.0% 全乾密度：0.42～0.45g/cm<sup>3</sup></p> <p>*1 JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯          *2 JIS H 8610 電気亜鉛めっき          *3 試験ではQ195を使用した          *4 JIS G 3505 軟鋼線材          *5 中国国家标准規格(GB規格)          *6 JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材</p>
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様としている。 試験体の固定は試験体の中心軸から10mm偏芯した位置とし、M16全ねじボルト、ナット2個(ダブルナット)及び「丸座金t12.0×φ86」、「丸座金t6.0×φ50」を用いて、基礎を想定した鉄骨治具に強固に緊結した。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 <b>134.0</b> kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所:神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成29年2月8日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 宇山 善博 所 義登

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。